

障害のある人への就労支援プロジェクト ～地域と障害のある人とのつながりをつくる～

教育・研究

ボランティア

課外活動

地域交流

代表者：人文学部社会科学科3年 眞田 信政

連携先

水戸市保健福祉部障害福祉課、水戸市産業経済部観光課、東海村福祉部介護福祉課、全国障害者問題研究会茨城支部、茨城県ダウン症協会、水戸市ダウン症児者親の会・つぼみ、つくばダウン症児者親の会、社会福祉法人木犀会まな一るもちの木、株式会社ヴィオーラ、特定非営利活動法人茨城自立支援センターとともに、社会福祉法人ユーアイ村、知的障害者就労支援施設みのり

顧問教員

土屋 和子（人文学部・講師）

参加者

眞田 信政（人文学部社会科学科3年）
海野 景太（人文学部社会科学科3年）
小野真結香（人文学部社会科学科3年）
河原井志穂子（人文学部社会科学科3年）
興野香奈江（人文学部社会科学科3年）
湖島 佑樹（人文学部社会科学科3年）
染谷 暁太（人文学部社会科学科3年）
田村 早絵（人文学部社会科学科3年）
植田 早紀（教育学部学校教育教員
養成課程3年）
藏本 大夢（人文学部社会科学科4年）
星川 知世（人文学部社会科学科4年）

プロジェクトの概要

●プロジェクト立ち上げの背景

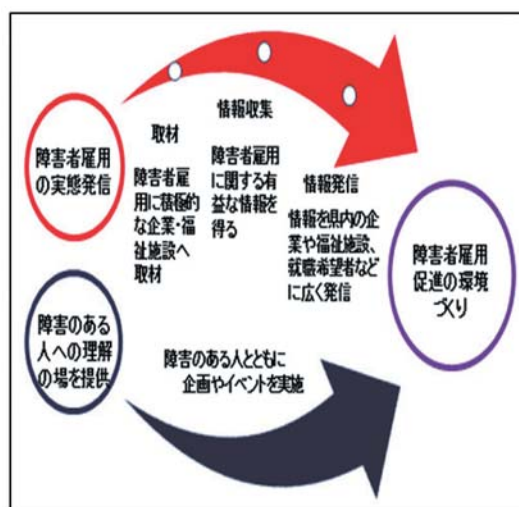
昨年度、我々は学生地域参画プロジェクト

に採択され、県内で障害のある人を雇用している企業や障害のある就労者へインタビューを行い、2本の動画を作成した。また、学習交流会及びシンポジウムを2回開催した。動画は学習交流会やホームページで公開したところ、連携先等から高い評価を得た。

一方で、昨年度の活動を通して、障害のある人を支えている人々が多いが、相互のつながりが希薄で交流が少ない実態を知った。そこで今年度は、障害のある人の就労を支える新たなネットワークを形成したいと考えている。

●目的

活動開始当初の「新たなネットワークの構築」という目的から、活動を通していく中で目的が拡大した。「障害者雇用の実態発信」、「障害者理解の場の提供」という2つのアプローチから、「障害者雇用促進の環境づくり」を目指す。



今年度の活動の流れと目的

●プロジェクトの活動内容

「障害者雇用促進の環境づくり」という目的のために、「障害者雇用の実態発信」、「障害者理解の場の提供」という2つのアプローチから、以下の5つの活動を行った。

1. 水戸市内で障害者雇用を積極的に行っている、株式会社ヴィオーラの経営者や障害のある従業員を取材し、インタビュー動画を制作・公開した。
2. 学習交流会を1月24日に県民文化センターで開催し、水戸市役所、障害のある人・家族、株式会社ヴィオーラ、市民、学生等と意見交換を行った。
3. 障害者理解につながるPR動画である、みとちゃんダンス動画を制作・公開した。動画には6つの団体が出演した。
4. 茨城県ダウン症協会とのフォーラムや懇談会、学びの作業所まな一との茨城大学ツアー、障害者福祉施設との茨苑祭での共同出店といった、障害のある人との共同企画を行った。
5. 茨城県内の各種地域イベントへの参加やボランティア活動等で、私たちのプロジェクト活動を報告し、交流活動を行った。

●活動日程

- ①インタビュー動画制作・公開
 - 6月～8月 取材先の選定、打ち合わせ
 - 8月～9月 取材
 - 9月～12月 編集作業、公開準備
- ②学習交流会の開催
 - 8月～12月 企画作り（講師依頼、会場手配、資料作り、宣伝）
 - 1月 学習交流会の実施
- ③障害者理解につながるPR動画の制作・公開
 - 6月～9月 連携先への協力要請、打ち合わせ
 - 9月～10月 動画撮影

12月～1月 編集作業、公開準備

④障害のある人との共同企画の実施

8月～10月 3回の障害者団体との懇談会の実施

11月 福祉施設との茨城大学での交流活動、茨苑祭での共同企画の実施

⑤地域イベントへの参加・ボランティア活動

6月～2月 県内の障害者関係のイベントへの参加、ボランティア活動の実施

●連携の方法

私たちは取材の対象として様々な障害のある人、特徴ある企業を取り上げたいと考えているが、対象者の選定の際はプライバシーの保護、人権擁護、企業秘密への配慮等、様々な対処が求められる。そのため、全障研茨城支部等、地域連携先の専門的助言を得ながら活動する。

学習交流会では、障害のある人を雇用している企業の経営者を講師として招き、講演会を実施した。また、市役所の職員及び障害者団体の代表者も招き意見交換を行った。

プロジェクトの成果報告

今年度は行政である水戸市をはじめ、多くの団体と新たな活動を行い、障害者雇用促進の環境づくりを推進できた。成果は以下の5点である。

1. インタビュー動画の制作

1) 実施内容

今年度、本プロジェクトは、連携先の1つである株式会社ヴィオーラへ、7月9日、9月18日、12月27日の3度にわたり訪問した。株式会社ヴィオーラは、本プロジェクトの取材協力先としては、初めて経営者が出演した一般民間企業である。1度目の訪問では工場内見学及び取材交渉を行った。工場内見学では、障害のある人がどのような企業の工夫や取り組みの下働いているか、案内して頂いた。2度目は、藤本昌宏社長のインタビュー風景撮影のため訪問した。撮影は社会連携課から借りたビデオカメラを用いて行い、約1時間撮影した。インタビューは障害者雇用開始の経緯や今後の展望を中心に行った。3度目の訪問は株式会社ヴィオーラに再取材を行うために訪れた。従業員の川又真理子さん、當金孝晴さんのインタビュー風景や工場内、外観を社会連携課から借りたビデオカメラを用いて、約5時間撮影した。また、記録としてデジタルカメラでの撮影も行った。

取材の際は、プライバシー保護や人権擁護、企業秘密へ配慮した。そのため、動画の公開に当たって藤本社長に動画を確認してもらった。さらに、ホームページ上で公開する予定なので、改めて動画を確認してもらい、同意書を提出してもらう予定である。また、撮影の際は、天候や周囲の音によって映像や音声は左右されるため、度々取り直しや修正を必要とした。

最終的に、県民文化センターで学習交流会を開催し、制作した動画を公開することができた。

【取材先一覧】

民間企業…1社

株式会社ヴィオーラ

編集作業は購入した編集ソフトを用いて、場面や音声の分割や接合、字幕の制作を行った。また、購入したマイクを用いて、動画にナレーションを付けた。編集作業の後、1本の動画作品を制作した。

【制作した動画作品】

「障害のある人にとって働きやすい職場づくり～株式会社ヴィオーラの取り組み～」
(約10分)

出演者

株式会社ヴィオーラ

代表取締役 藤本昌宏氏

障害のある従業員 川又真理子氏

當金 孝晴氏



インタビュー動画撮影時の様子

2) 成果

今回は障害者雇用に積極的な株式会社ヴィオーラを取材し、初めて経営者が出演した動画を制作することができた。経営者から見る障害者就労も含めた、障害者雇用促進の環境づくりを、会場に来ていた人々に対して、動画を通して伝えることができた。会場からのアンケートでは、「多くの人に障害者雇用を知ってもらう良いものができたと思う」、

「企業の障害者雇用における工夫が、とても分かりやすかった」など好評を得た。また、藤本社長からは、ホームページ上での掲載や新入社員研修での活用等を、現在検討してもらっている。

3) 今後の展望・課題

完成した動画は、出演者の承諾書を受け取り次第、本プロジェクトのホームページ上で掲載する予定である。現在、新たに行政との連携を考えている。すでに東海村役場と動画撮影の方向で、調整・交渉中である。また、撮影・編集に関して、今回のアンケートで得た意見を参考にしながら、新たな取材先や構成、演出を決めていく予定である。同時に、今回は配慮が足りなかった天候や周囲の音にも十分気を付けながら撮影を行う予定である。障害のある人の実態や企業の取り組みの発信によっても障害者雇用促進を展開できたので、今後も情報発信による障害者雇用促進をさらに展開していく予定である。

2. 学習交流会の開催

1) 実施内容

今年度のプロジェクト活動の目的である、障害者雇用の実態発信と障害のある人への理解の場の提供をするため、2部構成で1月24日学習交流会を開催した。障害者雇用の実態発信を目的とした第1部では、株式会社ヴィオーラの藤本社長と障害のある従業員を取材して制作をした、インタビュー動画を公開した。動画公開の後、藤本社長に障害のある人の雇用について講演を行って頂いた。障害のある人への理解の場の提供を目的とした第2部では、学生によるプロジェクト活動の報告を行った。学生報告の後、意見交換を行った。意見交換では、株式会社ヴィオーラの藤本社長と、共同企画で連携をした茨城県ダウン症協会、PR動画制作にご協力頂いた

水戸市障害福祉課の方々にも参加して頂いた。

学習交流会を開催するにあたって、約3ヶ月前から資料作り、広報活動、講師の依頼と打ち合わせを行った。当日の参加者は約40人（障害のある人・家族、学生、大学院生、地域にお住まいの方）であった。



活動報告の様子



意見交換の様子



連携先とプロジェクトメンバーの集合写真

「内容」

第1部 障害のある人と共に働く～現場から見えること～(13:05～14:15)
動画公開 「障害のある人にとって働きやすい職場づくり～株式会社ヴィオーラの取り組み～」
講演 「企業から見た障害者雇用（障害者は立派な戦力）」 株式会社ヴィオーラ 代表取締役 藤本昌宏氏
第2部 障害者理解を広げるために～私たちにできること～(14:30～15:30)
学生報告 ①「障害のある人への就労支援プロジェクト活動説明」 ②「茨城県ダウン症協会との懇談会」 ③「学びの作業所まなーるもちの木と茨大生の交流活動」 ④「知的障害者就労支援施設みのりとの共同企画」 ⑤「みとちゃんダンス公開～もっと知ってぼくらのこと～」
障害者理解を広げるための意見交換 参加：株式会社ヴィオーラ 代表取締役 藤本昌宏氏 水戸市 障害福祉課 館美代子氏 茨城県ダウン症協会 鍵久美子氏

2) 成果

今回の学習交流会では、企業の経営者と障害のある人の家族、行政という、立場の異なる方々に参加して頂き、交流の場を設けることができた。

第1部のインタビュー動画の公開と藤本社長の講演では、参加者から「障害のある人の雇用状況は良くないイメージだったが、積極的に雇用を行い、工夫をしている会社があることを知り、明るいイメージが変わった」、「ヴィオーラのような協力的な企業が増えてほしい」など、障害者雇用の実態を知ってもらう機会を提供できた。

第2部の意見交換では、経営者、当事者、行政それぞれの立場から、障害のある人の就労についての現状と課題を聞くことができた。参加者からは「市と企業、ダウン症協会それぞれの視点からの意見を聞き、現状の複雑さを改めて認識できた」「障害者と行政、社会福祉法人、ボランティア、企業の4つの連携が重要だと思った」という感想を頂いた。

学習交流会全体を通して、水戸市役所からは「障害者理解をすすめる橋渡しになったと思う。活動の内容が伝わる交流会で、素晴らしかった」、茨城県ダウン症協会からは「私たちだけではなかなかできない活動を茨城大学生の皆さんと交流を持ちながらできたことをありがたく思う」という感想を頂くことができた。

3) 今後の展望・課題

今回の学習交流会では、協力団体は3つだった。来年度は1つでも多くの連携団体に参加していただけるように、日程・時間調整を行う。

来年度の学習交流会で取り上げるテーマについては、意見交換の場で「障害福祉課と茨城大学生で法制度を勉強する集会」「水戸市の寺子屋の活動」「障害のある人本人の話を聞く」など、多くの意見を得られた。頂いた意見とアンケートを参考にテーマと講師を決めていく予定である。

藤本社長から、水戸ライオンズクラブに障害者雇用に興味のある人がいるので連携して

みては、という提案があった。藤本社長の提案をもとに新たなネットワークを築いていきたいと考えている。

3. 障害者理解につながるPR動画の制作・公開

1) 実施内容

私たちの活動をPRし、障害者理解の促進を目的とするみとちゃんダンス動画を制作した。動画には、水戸市役所・障害福祉課、株式会社ヴィオーラ、茨城大学教育学部・特別支援教育コース、学びの作業所まなーるもちの木、社会福祉法人ユーアイ村、茨城県ダウン症協会(アイ・ランニング、放課後等デイサービス勇・遊・友)といった6つの団体、94人に出演していただいた。

制作に臨む前に、みとちゃんダンスを制作した水戸市役所みとの魅力発信課、観光課、障害福祉課の3つの部局へ連携の依頼をした。みとの魅力発信課では、ダンスの制作許可、音源となるCD、振り付けのDVDをお借りした。観光課では、みとちゃんの出演許可をいただいた。みとちゃんには、私たちの撮影スケジュールに合わせて、9月16日～19日、10月6日～10日の計9日間、撮影に協力していただいた。障害福祉課では、私たちの活動の市役所内でのみとちゃん出演協力の申請書を提出して頂くなど、活動に対する助言、協力を受けた。また、私たちの制作したダンス動画へ出演していただいた。

撮影を行うにあたって、障害のある人のプライバシーへの配慮を考え、出演された障害のある人には承諾書を提出していただいた。また、完成した動画は昨年12月の全国専攻科研究集会や、1月に私たちが開催した「第3回障害のある人の就労を考える学習交流会」において公開した。



ダンス動画撮影時の様子

2) 成果

この活動からは、2つの成果を得ることができた。

1つ目は、行政との連携による活動の発展である。ダンス動画の制作にあたっては、みとの魅力発信課、観光課、障害福祉課という水戸市役所の3つの部局と連携し、様々な助言や協力をいただいた。特に障害福祉課には、職員の動画への出演や連携先の紹介など、多方面にわたるサポートを受け、私たちの活動をより多くの人に知っていただくという目的に大きく貢献した。

2つ目は、新たなつながりを開拓できたことである。撮影を通して数多くの人・団体と関わり、私たちの活動についての理解と協力をしていただいた。12月、1月と、完成したみとちゃんダンス動画を公開した2度の報告会においても、「ぜひ参加させてほしい」といった協賛の声をいただくことができた。

今年度得たこれら2つの成果は、来年度以

降のプロジェクト活動において障害者への理解の場をさらに拡大していくための土台として、非常に大きな意義となった。

3) 今後の課題・展望

課題としては、動画への出演団体数が少なかったことが挙げられる。そのため、今後の展望としては、水戸市役所・障害福祉課の紹介を受け、動画への出演団体数をさらに増やしていくことを計画している。

また、水戸市外でもみとちゃんダンスの撮影を行うことで、動画をより広く発信する。水戸市外での撮影については、水戸市みとの魅力発信課の許可を頂いている。

動画の公開に際しては、YouTubeや水戸市みとの魅力発信課・公式フェイスブックといった、ソーシャルメディアを活用し、動画を多くの人に見てもらおうべく公開する。

4. 障害のある人との共同企画の実施

今年度は障害のある人・家族と以下の①～④の共同企画を実施した。

【①ダウン症フォーラムの共催、②茨城県ダウン症協会との懇談会】

1) 実施内容

障害のある人と共に企画やイベントを実施して、障害のある人への理解の場を提供するという今年度の目的に沿って、茨城県ダウン症協会と以下の2つの活動を行った。

(1)10月13日に、まつぼっくり保育園で、茨城県ダウン症協会、全国障害者問題研究会茨城支部、ダウン症国際情報センターと、ダウン症フォーラムinつくば・県南プログラム「生まれてきてよかった！—知っていますかダウン症を持つ人の生活と人生を—」を共催した。プログラムの要旨は、ダウン症を持つ人々の魅力と生き生きとした生活や人生を学び合うというものである。プログラムの構成

は、①本人のアピール、②働くことを考える、③余暇を楽しむ、④出生前診断について考える、⑤みんなで踊ろうとなっており、②の中で私たちのプロジェクトの活動報告を行った。(2)8月20日、9月17日、10月15日の3回にわたり茨城大学で懇談会を実施した。懇談会では、意見交換・質疑応答、みとちゃんダンスの練習・撮影、茨苑祭における共同企画の打ち合わせを行った。懇談会の参加者は、プロジェクトメンバーの他に、1回目では、ダウン症の子どもたち・親、2回目では、ダウン症の子を持つ親、3回目では、ダウン症の子を持つ親、茨城大学教育学部特別支援教育コースの学生が参加した。



フォーラムでの活動報告の様子



懇談会の様子

2) 成果

ダウン症フォーラムでは、私たちの活動報告を行い、茨城県ダウン症協会の会員や、地域の人など、フォーラムの参加者に私たちの活動を知ってもらうことができた。

懇談会では、障害者雇用に関する有益な情報を得ることができた。得られた情報は、茨苑祭等で発信し、地域の人や学生など、幅広い人に障害者理解の場を提供することができた。また、懇談会の中で、親御さんから、茨城県ダウン症協会が開催しているイベントや、みとちゃんダンスに出演していただけたような団体を多数紹介していただいた。参加したイベントでは、ボランティア活動を行うことができた。みとちゃんダンス動画は、出演団体数が増え、動画を見た人に、多くの障害者団体を知ってもらうことができた。このように、紹介によって、プロジェクト活動の幅を広げることができた。

3) 今後の課題、展望

今年度の懇談会は、私たち自身が障害のある人を知ることだけで終わってしまい、一般の人に障害者理解を広めるための活動にはならなかった。来年度の懇談会は、今年度の懇談会をさらに発展させ、地域の人や学生など、幅広い人に参加していただき、障害者理解を広げる企画を一緒に考えていきたい。具体例としては、新しく改正されている法制度の勉強会などを考えている。様々な立場の人が参加し、それぞれの立場から、新しい法制度などをどのように受け止めているのか、意見交換をすることで、ネットワークの構築につながっていくのではないかと考えている。

【③学びの作業所まな一るとの茨城大学ツアー】

1) 実施内容

学びの作業所まな一るとの利用者と、職員に茨城大学に来ていただき、茨城大学ツアーを実施した。ツアーの内容は、学食で一緒に昼食を食べ、茨城大学附属図書館・人文学部講義棟を見学するというものである。大学ツアーの最後には、利用者と職員に感想を書いていただいた。



茨城大学ツアーの様子

2) 成果

学びの作業所と大学生の交流活動という、全国でも珍しい取り組みを行うことができた。学びの作業所まな一るとの利用者からは、「学食おいしかった」、「また行きたい」、「図書館楽しかったです」といった感想をいただいた。利用者の、他の場所での生活を見てみたい、体験したいという欲求をかなえることができたのではないかと思う。

大学ツアーの様子は、全国専攻科研究集会等で報告し、全国の人に私たちの活動を知ってもらうことができた。

3) 今後の課題・展望

今回の大学ツアーでは、時間の関係上ゆっくり大学内を回ることができなかった。来年度は、大学ツアーを再実施し、様々な施設を案内したい。また、余暇活動を通じた交流も行っていきたい。カラオケやボウリングなど、同年代同士としてのかかわりを持ち、交流を深めていきたいと考えている。

【④茨苑祭での共同企画】

1) 実施内容

障害のある人への理解の場を提供するため、茨苑祭で障害のある人との共同企画で「クッキー屋みのり」を出店した。企画内容は、クッキーの販売・団体紹介パネルの展示・みとちゃんダンス動画の公開である。

当日は、知的障害者就労支援施設みのり、茨城県ダウン症協会、茨城大学特別支援教育コースの学生と協力してクッキーを販売した。

パネルや写真は、知的障害者就労支援施設みのり、茨城県ダウン症協会、学びの作業所まな一から借り、私たちのプロジェクトも活動紹介パネルを展示した。



来場者に、パネルを説明する様子

2) 成果

2日間の来場者数は約250人で、みとちゃんクッキー150枚、5枚入りクッキー120セットを完売した。

今年度はみとちゃんダンスを制作しているため、みとちゃんにからめたクッキーを販売した。販売したクッキーは、知的障害者就労支援施設みのりのりで障害のある人たちが製造しているものである。みのりは普段、注文販売を行っている。なかなか人目に触れることの無いものを茨苑祭で販売することで、PR活動の場を提供することが出来た。来場者からは、「クッキーがおいしかった」、「みのりに行ってみたいと思った」と感想を得た。

また、昨年度は茨苑祭でシンポジウムを行ったが、あまり多くの人に来場してもらえなかった。この時の反省から、今年度は茨苑祭の雰囲気に合わせてクッキー販売を行ったところ、想定していたより多くの人に来場してもらった。そこで、障害のある人と共同で運営することに加え、障害者団体の紹介パネルの展示・みとちゃんダンス動画の公開をすることで、多くの学生や地域住民に、障害のある人への理解の場を提供することができた。来場者からは、「ダウン症・茨城県ダウン症協会について初めて知った。」「みとちゃんダンスでPRするアイデアが大学生らしくて素晴らしい」と感想を得た。

私たちのプロジェクトも活動紹介パネルの展示を行うことで、障害者理解を広めるための活動の周知につながった。来場者からは、「プロジェクトの活動を初めて知った。活動をこれからも続けてほしい、もっと活動が広まってほしい。」という感想を得た。

さらに、障害者支援施設くれよん工房の職員から、来年度は共に企画を立ち上げようという声をかけてもらい、活動の幅が広がった。その後、1月に障害者支援施設くれよん工房へ

訪問し、施設内の見学や交流を行い、これからの連携等について話し合った。

3) 今後の展望・課題

来年度は、今年度より多くの人に来場してもらい、障害者理解を広げるため、カフェの出店を考えている。そして、新たな連携先を含めたより多くの団体と企画を立ち上げたい。また、茨苑祭でプロジェクト活動に興味をもって声をかけてくれた他大学の学生との連携も考えている。

5. 地域のイベントへの参加・ボランティア

1) 実施内容

5月11日 グローカルフェスタいばらき
2014 ポスター発表

6月14日 社会福祉法人木犀会の学習会
参加

6月15日 茨城県ダウン症協会総会 参加

7月6日 全国障害者問題研究会茨城支部
主催「2014障がい問題の研究交流
会」活動報告

7月20日 茨城県自閉症協会主催 障がい
をもつ人のきょうだいのホンネ～
「きょうだい」の存在に目を・・・
～ 参加

8月10日 第5回あつまる、まじわる、つ
ながるー地域のサステナ活動をつ
なぐワークショップー ポスター
発表

8月30日 学びの作業所「まなーる」のオー
プンキャンパス 発表

8月31日 まつりつくば2014 ポスター発表

9月14日 第9回ユーアイ村まつり 参加

10月5日 茨城県ダウン症協会 ハロウィン
パーティ 参加

12月6日 茨城県ダウン症協会クリスマス会
参加

12月13日・14日 第11回全国専攻科研究集

会 特別報告

2月1日 ネットワークフォーラム2015
発表



学びの作業所まなーるのオープンキャンパス
発表の様子



全国専攻科研究会での特別報告の様子

2) 成果

私たちはイベントやボランティア活動に計13回取り組んだ。その内7回で活動を発表し、大きな反響を呼んだ。

「第11回全国専攻科研究会」では、全国規模で活動を発表した。参加者からは「学生地域参画プロジェクトという活動をはじめて知った」「学生が障害のある人というテーマで活動していることは心強い」という感想を得た。

「ネットワークフォーラム2015 第4分科会」には計17団体が参加しており、多くの人に活動を報告した。このイベントの中で、他大学の学生から本プロジェクトへの参加の要請を受けた。

3) 今後の展望

今年度は「障害者理解」という新たな視点が加わったことで、「障害者雇用」という枠を超えて、多くのイベントに参加することができた。来年度は、今年度以上に積極的に地域イベントやボランティア活動に参加していく。

●活動全体の成果・今後の展望

「障害者雇用促進」という目的に、「障害者理解」という視点を加えて活動の幅を広げることができた。また、一緒に活動した、障害のある人・家族、行政、企業から期待以上の協力を得た。さらに、定期的に活動を周知し、その度に予想以上の反響があり、「障害者雇用促進の環境づくり」における、自分たちの活動の意義を実感した。

今年度の経験を踏まえ、これからも、さらに障害のある人が働きやすい環境づくりを目指して活動を続けていきたい。